



77

ISHIBOTOKE - II

877jr

えと文

藤井保志

石仏 II

石仏には、色彩のないモノクロの世界が似あうように思う。石仏のまわりには、いつも、何かしら静寂さが漂っている。そして、その静寂さは、私の記憶をモノクロの世界へ導いているようだ。

石仏は、常に自然とともにある。堂宇もなく、野ざらしのまま風雪に耐え、数百年の歳月を、自然とともに過ごして、今、青空の下で、又、吹雪の中でたたずんでいる。その時の人々に見守られながら、冷たい石肌に歴史の重さと人々の情念をしみわたらせて、私たちを待っている。

自然は石仏にとって巨大な伽藍であり、山や岩盤がその後背である。石本来の持つ霊的な力と、石仏に接してきた人々の心が、まわりの空間を支配し、信仰的な雰囲気を作り、静寂さを呼ぶのだろう。そして、それは、あわいコントラストを持った、モノクロの世界である。

(大学文学部四年生)